

平成二十四年度 大学院人文科学府修士課程第2期入学試験問題
(日本史学)

次の一～八の設問から6問を選び解答しなさい。

一 奈良・平安時代史の研究において議論となっているテーマを一つ選び、その議論の研究史を略述し、現時点での解答者の見解を記しなさい。

二 左に掲げた史料に関する設問(一)～(五)に答えなさい。

和銅元年春正月乙巳武藏國秩父郡獻和銅詔曰(中略)大赦天下自和銅元年正月十一日味爽以前大辟罪
已下罪无輕重已發覺未發覺繫囚見徒咸赦除之其犯八虐故殺人謀殺人已殺賊盜常赦所不免者不在赦限。
亡命山澤挾藏禁書。百日不首復罪如初。高年百姓百歲以上賜粉三斛九十以上二斛八十以上一斛孝子順孫
義夫節婦表其門閭優復二年。

- (一) 右の史料は六国史の一つから引用している。その書名を答えよ。
(二) 傍線①の部分、適宜句読点を附して読み下しなさい。
(三) 点線②「禁書」とは何か、説明しなさい。
(四) 波線③はどういう意味か、答えなさい。
(五) 二重線④はどういう意味か、答えなさい。

三 次の史料は、正和四年(二三一五)に六波羅探題が出した文書である。史料を読み、設問に答えなさい。なお、()は割注を表している。

南禅寺領播磨国矢野別名雜掌申範家法師以下輩狼藉事、院宣、入道太政大臣家御消息(副訴状具書)如此、
如訴状者、範家法師法念・孫太郎・安芸法橋等引率惡党、打人当名、焼払政所以下数字民屋、奪取教百石年
貢等、及殺害刃傷、構城郭、籠置惡党云々、就之、殊加病誠、可沙汰居雜掌於庄家之由、所被仰下也、早守
護代相并莅彼所、見知城郭有無、事実者、破却之、相鎮当時狼藉、沙汰居雜掌於庄家、且載起請詞、注申子
細、且可被召進法念以下交名人等也、仍執達如件、

正和四年十一月二十三日

越後守御判
陸奥守御判

石原又次郎殿

- (一) 傍線部を読み下しなさい。
(二) この文書で問題となっている範家(法念)らの非法活動の内容を具体的に述べなさい。
(三) この範家は当時どのように呼ばれたか述べなさい。
(四) 「沙汰居雜掌於庄家」を読み下し、さらにどのような意味になるか、説明しなさい。
(五) 宛名の石原又次郎は、六波羅探題からどのような指示を受けたか、述べなさい。
(六) 「越後守」「陸奥守」は当時の六波羅探題である。この文書の文書名を述べなさい。

四 次の語句・人名について説明しなさい。

- (一) 土佐派
- (二) 蓮如
- (三) 古河公方
- (四) 勘合貿易
- (五) 西面の武士

五 日本近世史に関する次の語句を説明しなさい。

- (一) 『華夷変態』
- (二) 正徳の治
- (三) 真鍮四文銭
- (四) 井原西鶴
- (五) 国絵図

六 次に掲げた史料は、「諏方社早水能太夫助成銀伺書」(長崎歴史文化博物館蔵)である。この史料をよく読み、以下の設問(一)～(四)に答えなさい。

著作権上の理由により、WEB公開版では問題文を削除した。

- (一) 史料全文の釈文を作成しなさい。但し、出来るだけ現行の漢字を使用すること。
- (二) 史料の内容を解釈しなさい。
- (三) 早水家は諏方神社の「能太夫」である。近世期における神社と能との関係について説明しなさい。
- (四) この史料には宛所の記載がない。目付下の人物が長崎代官であることを踏まえて、適切な宛所を推測しなさい。但し、そのように推測した理由も述べること。

七 次の史料は、明治三十六年（一九〇三）に書かれたある日記の一部である。よく読んで、以下の設問に答えなさい。

五月十七日（日）〔中略〕夕暮また岩波を訪ひ共に小石川の奥をさまよひて宗教を談じ七時岩波の宿に帰りて真暗き室にあつてまた談話をつゞく余が社会の事をつまらなきものと思ひながら猶我が中心を支配する信仰なきを告げし時、然らば君は何を慰藉として生き居るやの一語異様に我が耳に響くを覚えたり〔中略〕
五月二十二日（金）

学校にて浜野より藤村昨朝家を出で、未だ帰り来らざる由をきく夕暮藤原と北島を訪ひしに北島は頭重しとして臥居れり藤原藤村の宅に行き余は砲兵工廠の後を廻りて帰り図書館に入りてルーテルの事を読み九時頃帰り来りして藤原来りて藤村のことを語る、すべての形跡頗る決心の固きものありしが如く、彼が平生の思想の傾向等考へて自殺したるにはあらずやとの疑去り難く、最近一週間の事など考へ合せてとめどなき思出の種なり、余はあまり親しからざりしが藤原は常に談笑せし友なればいたくなくも道理なり

- (一) 傍線部「岩波」の姓名を答えなさい。またこの人物について知っていることを、3行以内で述べなさい。
- (二) 日記の記主は、のちに『三太郎の日記』の著者として知られる人物である。その姓名を答えなさい。またかれがこの時に通っていた学校の名称を答えなさい。
- (三) 破線部「藤村昨朝家を出で、未だ帰り来らざる由」とあるが、藤村はどうなったのか。そのことが社会に与えた影響等をも含め、できるだけ詳しく述べなさい。
- (四) 破線部「彼が平生の思想の傾向」とあるが、藤村をはじめ岩波や日記の記主らの思想の傾向にはどのような特徴があつたのか。以下の言葉を必ず用いて、5行以内で述べなさい。日露戦争、教養、社会
- (五) 右の史料を用いて論文を執筆すると仮定し、その題目と概要、およびそのために収集すべき史料について、5行以内で述べなさい。

八 次の語句について、詳しく説明しなさい。

- (一) 三新法
- (二) 金融恐慌
- (三) 東亜新秩序
- (四) 日中国交正常化